

丹後機業の動き

景気「回復」の動きも見られるが、和装市況に回復感うかがわれず

- 政府は6月の月例経済報告において、『景気は、着実に持ち直してきており、自律的回復への基盤が整いつつあるが、失業率が高水準にあるなど依然として厳しい状況にある。』とし、1年11ヶ月ぶりに基調判断に「回復」の文言が盛り込まれたが、「着実に持ち直し」との表現は維持し、景気回復宣言には至らなかった。また、日銀発表の6月企業短期経済観測調査(短観)では、企業の景況感を示す業況判断指数(DI)が大企業製造業でプラス1と平成20年6月短観以来2年ぶりにプラスに転じた。改善は5期連続となり、平成20年9月に起きたリーマン・ショック前の水準に回復した。
- 景気を下支えする個人消費についても、日本百貨店協会のまとめによる5月の全国百貨店売上高が前年同月比で27ヶ月連続のマイナスとなったものの、22ヶ月ぶりに減少率が2%台まで回復し、京都、横浜、神戸ではプラスに転じ、持ち直しの傾向が出ている。
- しかしながら、和装市場については、平成18年夏の呉服販売最大手の倒産以来、縮小してきており、小売店舗の縮小や上代価格の低下傾向、更には本年6月からの改正割賦販売法の施行により規制が強化されたことから高額商品のローンが組みにくくなる等、厳しい状況が続いている。
- このような中、中国からの原料生糸が天候不順による繭不足と日本向けの高規格糸が生産量減少により品薄の状況から生糸価格が上昇している。今後も生糸の減産や人件費の上昇で生糸価格が下がる要因はなく、高止まりの状況が続くそうである。
- 丹後産地では、生糸価格の高騰により製品価格への転嫁を図りたいところだが、販売不振の中、上代価格が上げられない厳しい状況が続いている。糸商から小売業のどの段階でも苦戦しており、今後に向け和装業界全体に適切な利益配分を行えるビジネスモデルの構築が急がれるところである。

(調査時期：平成22年6月上旬～6月下旬)

【ちりめん(白生地)】

- 平成22年1～6月の生産数量は、25.3万反で前年比101.3%(無地119.4%・紋97.0%)となった。昨年は年間を通じ減産が止まらず、年間生産数量が50.3万反となったが、今年は無地では1月から6ヶ月連続で対前年を上回っており、紋についても微減と全体としてはやや持ち直した感もある。しかしながら、昨年は大幅に減産しており、1昨年同期(平成20年年間生産数量累計65.7万反)から見れば好調とは言えない。
- 財務省の貿易統計によると、平成22年5月現在の小幅白生地輸入数量(無地及び紋)は16.5万反で、前年比103.8%となっている。既に丹後物と輸入物との棲み分けはほぼできており、その影響は少ないと思われる。
- 白生地の生産数量は、昨年1年間、販売低迷から、在庫減らしのため、白生地の生産・在庫調整がある程度進んだと考えられる。春先の催事を前に新しい白生地(無地)が品薄となり、原料の生糸価格の先高感から生じた仮需も手伝い、対前年より生産量が伸びている。しかしながら、5月の催事シーズンに入ると新たな商談は極端に少なくなった。
- 丹後産地としては、生糸価格が高止まりし、生地価の値上げ要請が鮮明となる中、今後価格転嫁がかなわず、原料高・製品安の状況の傾向が一層強まるようなら、機業の休機や廃業による減産も懸念され、機業経営を取り巻く環境は一層厳しいものとなってきている。
- ごく一部ではあるが、「新しい企画商品については、機業の希望価格が維持されている。」と言った声もあった。
- 平成20年にスタートした蚕糸・絹業提携システムにより国産繭・生糸を使用した高付加価値化を目指した商品については、かなり苦戦している。

【帯地】

- 平成22年(1～3月)の西陣帯地生産数量は、20.9万本で前年比94.1%となっている。

- 市中在庫は、まだあると見られており、市況は悪い。高額品が苦戦するなか、荷動きの中心は値頃品である。高級品においても景気回復は目に見えずローン規制等も重なり、その上代は下落してきている。
- こうした中、振袖帯の値頃品で目新しい新柄作りへの取組によって比較的良好な織機稼働を維持する産地機業も一部にある。
- 織手の高齢化と織機の老朽化から5年後には出機の数が増えるのではないかと心配される機業が多い。

【広幅織物】

- 服地では、正絹は小ロット発注がスポット的にある程度で、発注時期もバラバラであり、シーズン性はなくなってきている。ポリちりは、販路の減少・縮小により、依然として先細りが止まらず、産地は、縮小か用途転換を余儀なくされている。
- ネクタイは、昨年秋頃からのデフレ基調により発注先からの工賃値下げ要請が厳しくなっている。生産拠点が国内からより一層、中国へ移転してきており、厳しい状況にある。
- カーシートは、仕事量が確保されているところもあるが、厳しい賃下要請から収入額が抑えられている。
- 先行きが不透明な中、御守りの製織は堅調に推移している。

【小物他】

- 風呂敷では、正絹は実需分のみ底堅く低位安定で推移し、一方、レーヨン地は、極端な不振状態にある。綿素材やポリエステルでも小粋な柄のものは比較的売れている。
- 帯揚は、安価な中国製品に押されっぱなしで衿等の小物も和装販売の低迷そのままに低位で推移している。